

九州産業大学造形短期大学部 アセスメント・ポリシー

I アセスメント・ポリシー(学修成果の評価方針)

本学は、「建学の理想と理念」、「育成する人材」を実現するために、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの方針を定め、教育活動を進めている。アセスメント・ポリシーは、本学の教育の質を自己点検・評価し、その結果を広く公表するため、学修成果の達成状況を評価・可視化する具体的な実施方法などを定めたものである。ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を備えた学生を育成できているかを、多面的・総合的に点検・評価します。教育効果並びに学生の学修成果に対する測定・評価指標は、機関（短大）、教育課程（学科）、科目の3つのレベルに対して、全学として以下のように定める。

1. 短大全体のアセスメント・ポリシー

学生の専門知識やスキルの習熟度や志望進路（就職率、就職満足度等）等から、主体的に学ぶ勉学意欲と自らの資質・能力を伸長しようとする熱意と意志をもって入学した学生の学修成果の達成状況を検証する。検証結果は、短大の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に活用する。

2. 学科のアセスメント・ポリシー

学科における卒業・修了要件達成状況、単位取得状況、GPA等から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証する。

3. 科目ごとのアセスメント・ポリシー

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価や学生授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。科目の成績評価は、科目の特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した評価方法に沿って行う。

表1 学修成果・教育成果の評価レベル及び測定データ一覧表

評価主体 /時期	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	在学中(単位認定・進級判定) カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	卒業時(卒業後) ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
短大全体 (機関) レベル ↓ IR	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験問題・入学試験結果 調査書等の記載内容 面接、志願理由書等 入学時満足度調査 入学前教育プログラム 留学意識調査 留学生日本語能力 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントテスト 学生アンケート (学生生活実態調査) GPA ※1 単位修得状況 学修行動調査 成績分布 満足度調査 課外活動状況 留年者数・留年率 退学者数・退学率 休学者数・休学率 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントテスト 卒業時満足度調査 卒業生へのアンケート調査 学位授与数・授与率 卒業者数・卒業率 GPA※1 編入学者数 就職状況・就職率 資格取得・国家試験合格実績 教員・公務員採用状況 卒業生アンケート

		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア単位認定実績 ・インターンシップ単位認定実績 ・留学プログラム参加実績 ・インターンシップ参加実績 ・資格講座開催・出席実績 ・資格取得状況 ・単位互換制度実績 ・文理芸融合科目開講・受講実績 ・学外組織連携プログラム実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・OB・OG アンケート ・就職・採用先アンケート
学科（教育課程）レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験問題・入学試験結果 ・面接、志願理由書等 ・入学時満足度調査 ・学修ポートフォリオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA※1 ・単位修得状況 ・学修行動調査 ・成績分布 ・出席状況 ・留学プログラム参加者の成果 ・満足度調査 ・課外活動状況 ・資格取得者 ・除退率 ・休学率 ・カリキュラムマップ・ツリー ・学修ポートフォリオ ・ルーブリック ・授業評価アンケート ・インターンシップ参加実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA※1 ・卒業研究・卒業論文・卒業制作 ・編入学者数 ・卒業時満足度調査 ・卒業生へのアンケート調査 ・学位授与数 ・就職率 ・学修ポートフォリオ
科目レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイスメントテスト※2 ・英語能力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・単位修得状況 ・科目合格率 ・成績分布 ・出席状況 ・学外実習評価（アクティブ・ラーニングプログラム） ・学生授業評価アンケート ・学修履歴（ポートフォリオ） 	

※1 GPA

GPAとは「Grade Point Average」の略で、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものの。本学のGPAは、履修登録した科目毎の5段階評価(S・A・B・C・D)を4から0までのGP(Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点となる。

※2 プレイスメントテスト

入学時に国語、英語、数学の習熟度テストを実施し、その結果に基づいて習熟度別にクラス展開する。

II 九州産業大学造形短期大学部学生として期待される能力 [九産大生コンピテンシー]

1. 九産大生コンピテンシー

九産大の建学の理想「産学一如」と理念とビジョンを基にキーコンピテンシーを6つのカテゴリーに分け、さらに16つの能力に分類した。

*キーコンピテンシーは、学部を超えて共通する九産大生の基本的能力。

表2 コンピテンシーのカテゴリーと能力

キーコンピテンシー	能力
知性・実践力	<p>教養と専門的知識を適切に活用する能力</p> <p>1. 得た知識や技能を基に自分の考えを組み立て、問題を正しく捉え、課題を考えることができる</p> <p>2. 課題の解決策を目指し困難に向き合うことができる</p>
行動力 (熱意)	<p>論理的に思考し判断・行動する能力</p> <p>3. 課題や目的に沿って、必要な情報を収集・整理できる</p> <p>4. 論理的思考に基づき分析・解析し、適切に表現(記述・口述)できる</p> <p>5. 客観的根拠に基づき判断し、目的のために意欲的に行動することができる</p>
人間力(豊かな人間性)	<p>主体的に他者と協力する能力、多様性を認めて変化し続ける力</p> <p>6. 時代の変化に主体的に向き合って関わり合うことができる</p> <p>7. 自分の役割を理解し他者との関わりや共存に欠かせない対人関係を築くことができる</p>
共創力	<p>修得した知識・技能を活かし、他者と協働し創造力を発揮する能力</p> <p>8. 未知の課題に対し、自分なりの答えや解決策を見つけ出すことができる</p> <p>9. 自分なりの解決策を実行し、価値を生み出していくことができる</p>
情報社会への適応力	<p>情報技術を活用する能力</p> <p>10. 溢れる情報から、必要な情報を検索し、取捨選択することができる</p> <p>11. 数値・図表等の数量情報を解析・表現することができる</p> <p>12. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーションとコミュニケーションを行うことができる</p> <p>13. 多様な情報ツールの機能を理解し、情報端末上で情報技術を活用することができる</p>
グローバル対応力	<p>多様な人々とコミュニケーションする能力</p> <p>14. 自分の考え方をしっかり相手に伝えることができる</p> <p>15. 異文化を理解して思考し、柔軟に行動することができる</p> <p>16. 他者と情報共有して課題を解決するための対話ができる</p>

2. コンピテンシーの評価プログラム

コンピテンシー(中項目)	ルーブリック	
	要素(小項目)	
教養と専門的知識を適切に活用する能力	1. 得た知識や技能を基に自分の考えを組み立て、問題を正しく捉え、課題を考えることができる 2. 課題の解決策を目指し困難に向き合うことができる	ライティング 読解リテラシー 数学的リテラシー 専門知識
論理的に思考し判断・行動する能力	3. 課題や目的に沿って、必要な情報を収集・整理できる 4. 論理的思考に基づき分析・解析し、適切に表現(記述・口述)できる 5. 客観的根拠に基づき判断し、目的のために意欲的に行動することができる	本質理解 課題設定 問題解決思考 アイデア創出 行動を起こす 完遂
主体的に他者と協力する能力、多様性を認めて変化し続ける力	6. 時代の変化に主体的に向き合っ て関わり合うことができる 7. 自分の役割を理解し他者との関わりや共存に欠かせない対人関係を築くことができる	自己理解 主体的行動 チャレンジ性 自己評価・学習行動 規律性・倫理観 使命感・貢献意識
修得した知識・技能を活かし、他者と協働し創造力を発揮する能力	8. 未知の課題に対し、自分なりの答えや解決策を見つけ出すことができる 9. 自分なりの解決策を実行し、価値を生み出していくことができる	意見を主張する 話し合う 主体的行動 目標設定 建設的・創造的な討議
情報技術を活用する能力	10. 溢れる情報から、必要な情報を検索し、取捨選択することができる 11. 数値・図表等の数量情報を解析・表現することができる 12. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーションとコミュニケーションを行うことができる 13. 多様な情報ツールの機能を理解し、情報端末上で情報技術を活用することができる	情報収集 情報処理 情報発信 ITスキル AIリテラシー

多様な人々とコミュニケーションする能力	14. 自分の考え方をしっかり相手に伝えることができる 15. 異文化を理解して思考し、柔軟に行動することができる 16. 他者と情報共有して課題を解決するための対話ができる	語学 多様性理解 異文化理解 対人興味・受容
---------------------	---	---------------------------------

3. 学科(教育課程)レベルでのコンピテンシーの評価プログラム

- ①「九産大生コンピテンシー」を参考に学科のコンピテンシー評価の考え方を検討・整理する。
- ②ディプロマ・ポリシーに沿った学修成果やコンピテンシー評価の仕組みについて検討する。
- ③②を把握するための査定の観点及び指標について検討する。

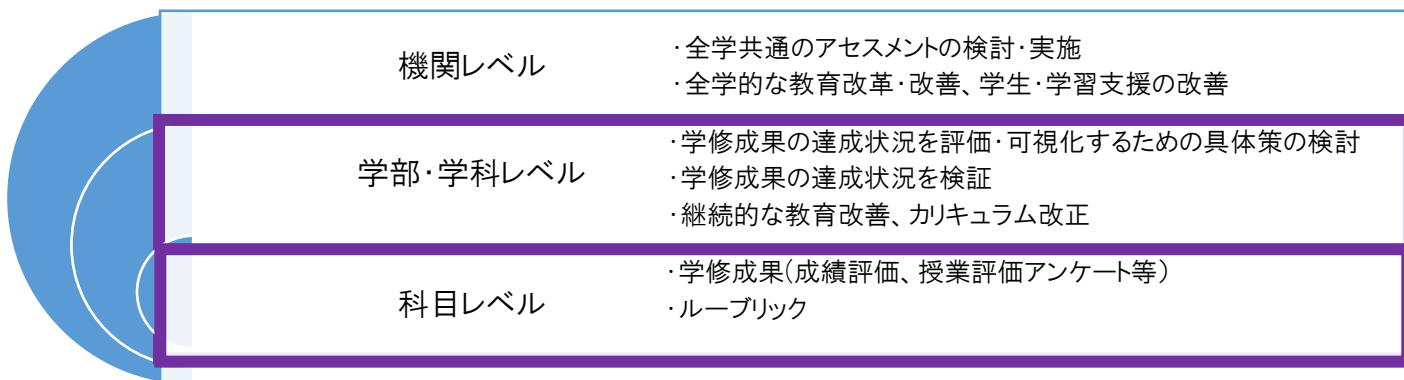


図1 レベル別コンピテンシー育成のための取り組み

以上